

2014年5月12日

札幌市都市計画審議会
委員長および各委員の皆様

一般社団法人 北海道自然保護協会
会長 佐藤 謙

北5条西8丁目地区都市計画に関する要望

貴審議会の皆様には、日頃から、安全で暮らしやすい文化芸術都市札幌の都市計画の策定にご尽力くださり、心から敬意を表します。

ご承知のように、札幌は豊平川扇状地のうえに、扇状地の利点を生かして発達してきました。しかし、いっぽうでは扇状地ゆえの洪水災害なども幾度も被ってきました。

扇状地地形は市内に見られるわずかな起伏や傾斜などにも認められますが、扇状地末端付近であった知事公邸・北大植物園・道庁・北大キャンパス、そして伊藤邸敷地を含む北1条～8条付近には、かつてのメム（湧泉池）の存在を示す起伏にとんだメム特有の地形が残っております。とりわけ、北5条西8丁目地区は所有者の伊藤氏が代々元の地形や本来の植生を改変せずに意識的に保全してきたこともあって、サッポロの原風景が残っており、極めて貴重です。そのようなところに高層建築物が建ち、かつてのサッポロの原風景を失うことは札幌の140年の歴史を失うことでもあります。

札幌の都市計画にこのような札幌特有の地形や植生を生かし、文化芸術都市さっぽろのイメージアップを図る都市計画を要望いたします。

ご検討よろしくお願いいたします。

要望項目

15日の貴審議会における事前説明案件【札幌圏都市計画地区計画の決定【北5条西8丁目地区】】（伊藤邸敷地）はサッポロの原風景を含む札幌の都市景観の保存の上できわめて重要であり、貴審議会における今後の慎重な審議をお願いするとともに以下の要望をいたします。

1. 札幌市が育まれてきた豊平川扇状地の原風景（メム特有の地形と植生）の面影をとどめる知事公邸-植物園-伊藤邸敷地-道庁-北大キャンパス地域には、その面影が高層ビルに埋没されずに次世代に引き継がれるように、また札幌らしい都市景観が保持されるように、高層建築物を現在以上に増やさないようにしていただきたい。
2. 上記地域の開拓時代からのサッポロの原風景の面影を残し、市民や札幌を訪れる人々に公開することは、札幌市民の心のよりどころとなり、21世紀の札幌の象徴的景観となることを念頭に都市計画と検討していただきたい。
3. この夏札幌で開催される「札幌国際芸術祭2014」のテーマは「都市と自然」であり、そのコンセプトは「人間と自然が共生する、新しい都市のかたちへ」と伺っております。札幌のこれからの都市計画の基本計画はこの素晴らしいテーマを生かし、札幌の母なる川である豊平川の水辺環境を生かしていただきたい。将来の「札幌国際芸術祭20〇〇」においては、北大植物園を含む北5条西8丁目地区を主な自然野外会場とすべく、この地域の都市計画を策定していただきたい。
4. 以上のような都市計画を実現するために、貴審議会としては拙速にならず、伊藤氏と札幌市民の声を十分に聴いて、結論を出していただきたい。また、私たち市民にでもできることがあるなら、ご教示いただきたい。